

【CSRを取り巻く国際的なガイドラインのこれから】

■第一部■

CSRに関する国際的なガイドライン、基準の動向について

【日時】

2013年7月4日(木)

第一部 10:00-12:00(9:30開場)

【会場】

東京証券取引所ビル2F 東証ホール

* 参加費 無料

主催：株式会社日本取引所グループ / 公益財団法人日本財団

■ 第一部 「CSRに関する国際的なガイドライン、基準の動向について」

【趣旨・目的】

2013年、CSRに関して国際的なガイドラインや基準についていくつか重要な動きがあります。

今年の5月にはGRIガイドラインのバージョン4が発行され、また、ヨーロッパを中心として規制や基準作りが活発に行われるなど、CSRを取り巻く環境に大きな変化が起きています。

本セミナーでは、グローバルコンパクト代表理事の有馬様、株式会社クレアン代表取締役の藺田様、武田薬品工業株式会社コーポレート・コミュニケーション部シニアマネージャーの金田様をお招きし、国際社会の中における各種基準やガイドライン等の動向を踏まえ、日本企業が注目していくべき点や企業の中での活用実践例についても合わせてご紹介をしていきます。

【プログラム概要】

10:00-10:10 主催者挨拶

10:10-11:00 基調講演

「これからのグローバル企業に求められるCSR経営」
グローバルコンパクト代表理事 有馬 利男 氏

11:00-11:20 各種国際ガイドラインに関する解説

株式会社クレアン 代表取締役 藺田 綾子 氏

11:20-11:50 企業における取り組み事例

武田薬品工業株式会社
コーポレート・コミュニケーション部シニアマネージャー 金田 晃一 氏

11:50-12:00 質疑応答 ・ 第一部 閉会

★フィードバック・シートへのご協力、よろしくお願い申し上げます。

■ 第一部 「CSRに関する国際的なガイドライン、基準の動向について」

講師紹介

有馬 利男 氏 グローバルコンパクト 代表理事

国連グローバル・コンパクト ボードメンバー
一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク 代表理事
認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム 共同代表理事
富士ゼロックス株式会社 エグゼクティブ・アドバイザー

1967年国際基督教大学教養学部卒業。同年富士ゼロックスに入社。

総合企画部長、米国ゼロックス・インターナショナル・パートナーズCEO、富士ゼロックス代表取締役社長を経て、2012年4月から現職。社長在任時に経営改革を推進する一方、「企業品質」コンセプトを打ち出すなど、CSR経営に尽力した。2007年から国連グローバル・コンパクトのボードメンバー。キリンホールディングス株式会社など数社の社外取締役役に就任し、企業と社会的な活動を広げている。



藪田 綾子 氏 株式会社クレアン 代表取締役

兵庫県西宮市生まれ。1988年、女性を中心にしたマーケティング会社クレアンを設立。1995年、日本初のインターネット・ウィークリーマガジン「ベンチャーマガジン」を立ち上げ、編集長となる。そのころから、環境・CSRビジネスをスタート。現在は、日本コカ・コーラ、日本たばこ産業、横浜ゴム、JX、任天堂など延べ約450社のCSRコンサルティングやCSR報告書の企画制作を支援。NPO法人サステナビリティ日本フォーラム事務局長、NPO法人社会的責任投資フォーラム理事、中央環境審議会臨時委員、環境省チャレンジ25キャンペーン関連事業推進委員会委員、環境省グリーン・マーケットプラス研究会委員などを務める。著書に「地球は今」10巻シリーズ(栄光文化研究所)、アメリカ先住民族の価値観を描いた「プレアデスの智慧」(綜合法令)、「環境ビジネスウイメン～成功の原点と輝く生き方」(日経BP社)、「未来をスケッチ」(麗澤出版)、「サステナビリティと本質的CSR」(三和書籍)など。甲南大学文学部社会学科卒業。



■ 第一部 「 CSRに関する国際的なガイドライン、基準の動向について 」

講師紹介

金田 晃一 氏

武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 シニアマネージャー

ソニー渉外部通商政策課、在京米国大使館経済部通商政策担当、ブルームバーグテレビジョンアナウンサーを経て、1999年より、ソニー（再入社）、大和証券グループ本社、武田薬品工業の3社にてCSR活動を推進。IIRCパイロット企業プログラムメンバー、国連グローバル・コンパクト・LEADプログラム統合報告Pjメンバー。2007～2008年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科非常勤講師。日本NPO学会員。1987年慶應義塾大学経済学部卒業、1993年レディング大学大学院経済学部修士課程修了。共著に「ソーシャル・イノベーション」（日本経済評論社）、「社会イノベータへの招待」（慶応大学出版社）、「ビジネスと社会貢献の近接と統合」（丸善）他、多数。



【CSRを取り巻く国際的なガイドラインのこれから】

■ 第二部 ■

GRIガイドライン・バージョン4発行に伴う対応について

【日時】

2013年7月4日(木)

第二部 13:30-17:00(13:00開場)

【会場】

東京証券取引所ビル2F 東証ホール

* 参加費 無料

主催：公益財団法人日本財団 / 株式会社日本取引所グループ

協力：G4 マルチステークホルダー委員会

■ 第二部 「GRIガイドライン・バージョン4発行に伴う対応について」

【趣旨・目的】

GRIのガイドライン・バージョン4発行に伴い、今年の5月にアムステルダムでGRI国際カンファレンスが開催されました。

日本財団では、23名の日本代表団を組織し、本カンファレンスに参加して参りました。カンファレンスの中では、ガイドライン改訂に伴う詳細な説明をはじめとして、サステナビリティレポートのあり方など、世界中から有識者が集まり、ディスカッションが行われました。

本セミナーでは、G4の改訂ポイントについてお伝えするとともに、国際的なガイドライン、基準等の策定状況を踏まえ、日本企業がどのような点について着目していくべきかについて考えていきます。

■ 第二部 「GRIガイドライン・バージョン4発行に伴う対応について」

【プログラム概要】

13:30 - 13:40 主催者挨拶

13:40 - 14:30 基調講演
「G3からG4へ、企業と社会の何が変わり、今後どこへ向かうのか」
サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 後藤 敏彦 氏

14:30 - 14:50 GRIカンファレンス参加報告
日本財団

14:50 - 15:10 GRI改訂ポイントに関する報告
LRQA Japan 経営企画・マーケティンググループ 統括部長 富田 秀実 氏

15:10 - 15:20 質疑応答

15:20 - 15:30 休憩

15:30 - 16:30 パネルディスカッション
「国際社会の動向を踏まえたCSRレポートの今後の在り方」
パネリスト：※順不同
LRQA Japan 経営企画・マーケティンググループ 統括部長 富田 秀実 氏
三井住友信託銀行 証券代行コンサルティング部 審議役 小森 博司 氏
一般財団法人 CSOネットワーク 事務局長・理事 黒田 かをり 氏
株式会社 損害保険ジャパン CSR部上席顧問 関 正雄 氏
モデレータ：
日本財団 経営支援グループ CSR企画推進チーム チームリーダー 町井 則雄

16:30 - 16:50 全体質疑応答

16:50 - 17:00 閉会挨拶 ・ 第二部 閉会

★フィードバック・シートへのご協力、よろしくお願い申し上げます。

■ 第二部 「GRIガイドライン・バージョン4発行に伴う対応について」

講師紹介

後藤 敏彦 氏

NPO法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事

環境監査研究会代表幹事、一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパンネットワーク理事、サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク（NSC）代表幹事、NPO法人社会的責任投資フォーラム理事・最高顧問、環境経営学会会長、（一社）環境パートナーシップ会議（EPC）理事、NPO法人アースウォッチ・ジャパン理事、地球システム・倫理学会（常任理事）、（一社）グリーンファイナンス推進機構理事、環境管理規格審議委員会EPE小委員会・SC1/WG3 14005委員、環境コミュニケーション大賞審査委員、環境省「環境コミュニケーション規格に関する研究会」委員、エコアクション21認証制度運営委員、等。著書・論文等、多数。
東京大学法学部卒。



富田 秀実 氏

LRQA Japan 経営企画・マーケティンググループ 統括部長

ソニー株式会社にて、中央研究所勤務、ソニーヨーロッパ赴任を経て、環境戦略室室長の後、CSR部発足当初から統括部長を約10年務める。その間、CSRマネジメント、レポート、コミュニティプロジェクトなどCSR全般のマネジメントに携わる。

2013年2月より、LRQAジャパンで経営企画・マーケティンググループ統括部長。

2005年に始まった、ISO26000（社会的責任）開発のワーキンググループでは、コミュニケーションを担当するタスクグループ（TG2）の座長に就任、規格策定後の現在は、ISO 26000 PPO-SAG (post publication organization-Stakeholder Advisory Group) のメンバーとして、ISO26000に関する活動に助言を行う立場にある。また、2006年より、GRI本部の技術諮問委員会（TAC）委員を務め、GRIのガイドラインの技術的なレビューを行う。国内では、日本財団が事務局を務めるG4マルチステークホルダー委員会の委員長に就任。他に、環境省の環境コミュニケーション規格に関する研究会委員、また、CDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）のアドバイザリーボードのメンバーも歴任。

東京大学工学部卒、プリンストン大学修士修了。



■ 第二部 「GRIガイドライン・バージョン4発行に伴う対応について」

パネリスト紹介

小森 博司 氏 三井住友信託銀行 証券代行コンサルティング部 審議役

1979年4月 (株) 埼玉銀行 (現りそなホールディングス) 入行
1986年3月 国際大学大学院修士課程 (国際関係学専攻) 修了
1990年12月 住友信託銀行 (株) (現三井住友信託銀行) 入社
1999年1月 証券代行機関として国内初のIRグループを立ち上げ、現在に至る。
コーポレート・ガバナンスおよび議決権行使における国内外機関投資家と日本企業との間のコミュニケーション促進の為の橋渡し役を志向。金融庁金融審議会金融分科会「我が国金融・資本市場の国際化に関するスタディグループ」参考人 (2009年5月) 他、東京証券取引所、日本IR協議会、外国人機関投資家主催セミナー等国内外での講演多数。



黒田 かをり 氏 一般財団法人 CSOネットワーク 事務局長・理事

民間企業に勤務後、米国コロンビア大学ビジネススクール日本経済経営研究所、アジア18カ国に事務所を持つ米国民間非営利法人アジア財団日本事務所の勤務を経て、2004年にCSOネットワークに入職。人権NGOのソーシャルアカウンタビリティインターナショナルにて研修 (2006年)、ISO26000の策定に日本のNGOエキスパート (専門家) として参画、JIS化本委員会の委員を務めた。またGRIのイベントセクターの補足基準策定にも関わった。経済産業省BOPビジネス支援センター運営協議会委員、NGOと企業の連携推進ネットワークアドバイザーなどを務める。米国公認会計士資格取得。



■ 第二部 「GRIガイドライン・バージョン4発行に伴う対応について」

パネリスト紹介

関 正雄 氏 株式会社 損害保険ジャパン CSR部 上席顧問

安田火災海上保険（現・損保ジャパン）入社。システム企画部、社長室、営業開発第一部などを経て2001年地球環境部に配属。以来同社のCSR推進に関わる。2003年CSR・環境推進室長に就任。2009年理事CSR統括部長。2012年損保ジャパン環境財団専務理事を兼務。2013年4月から現職。この間、ISO26000作業部会エキスパート、内閣府、環境省、経産省、文科省などの委員を務める。現在、CBCC企画部会長、サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク代表幹事、JANIC理事、など。2013年4月より明治大学経営学部特任准教授。著書に「ISO26000を読む」（日科技連）ほか。



町井 則雄 公益財団法人 日本財団 経営支援グループ CSR企画推進チーム チームリーダー

1968年生まれ。1993年日本財団に入会。ボランティア支援部に在籍中に阪神・淡路大震災が発生。直後から被災地に入り災害ボランティア支援を担当。その後、日本の公益活動を支えるプラットフォーム事業「日本財団公益コミュニティサイト『CANPAN(カンパン)』」の企画・開発担当。
現在、企業との連携による社会課題の解決に向けた事業づくりを担当する。経産省 地域新成長産業創出促進事業審査委員、内閣府「新しい公共推進会議」情報開示・発信基盤に関するワーキング・グループ委員、G4マルチステークホルダー委員会 委員、サステナビリティ/CSR検定委員会 委員、一般社団法人 Stand for mothers 理事、その他、CSRと社会貢献などに関する講演なども行う。著書(共著)「ISO26000 実践ガイド 社会的責任に関する手引(中央経済社刊)」、「企業と震災(木楽舎刊)」。

